



聖泉大
唐楽寧学長

建学の精神「人間理解と地域貢献」に基づいた人材育成を心がけている。看護職を目指す学生であれば、患者さんの気持ちを理解し寄り添う姿勢が大切だ。誰もが何らかの組織に属しており、他者を尊重し、一緒に協力して働いていく能力を育む



京滋のトップに聞く

地域医療支え、男性看護職も育成

ことを重視している。地方にある私立大として、地域とのつながりを重視している。地域住民一人一人の悩みを聞いたり、一緒に活動したりして、学生が地域や住民の抱える課題を把握し、自身の学びや就職後の取り組みに生かしている。



聖泉大のキャンパス(彦根市肥田町)

滋賀県内では、われわれも含めて三つの四年制大学が看護学部を設置しているが、その中には1学年90人と最も定員が多い。本学の特徴として、学生の8割が県内出身者で、卒業生の8割近くが県内の医療機関に就職している。看護師不足が叫ばれている中、地域に根ざし、地域医療を支えているという自負がある。

聖泉大 2003年に開学した。看護学部と人間学部(24年に募集停止)の計2学部。学生数は大学院も含む396人(昨年5月1日現在)。

約2割が男子学生で、看護業界としても貴重とされる男性看護職の輩出も担っている。高齢化が進む一方で健康寿命が重視され、今後ますます看護職の需要は高まる。男子高校生に進路として看護師を選んでもらうなど、新たな担い手創出につなげていきたい。

都市部の大学では看護の実習先の確保に苦しんでいる大学もあるが、県内就職者が多いこともあり、実習先の医療機関を全て県内で確保できている。学生にとっては通学圏内に実習先があることで時間的な制約が少なくなり、経済的な負担も減る。

医療の世界も人工知能(AI)の導入が進むなど急速に変化している。その中で、地域の看護力を相対的に高めようと、卒業生の支援にも力を入れている。大学院での学びに加え、看護キヤリアップセンターを設置し、統計解析手法の基本や文献の活用などを学びながら、参加者同士が交流を深める講座を開いている。

18歳人口が減少する中で、地方にある私立大はコストを減らしながら教育の質を高めるといふ難題に取り組みなくてはならない。オンラインを活用して複数の大学で教養科目を充実させるなど新たな取り組みが実施できないうかが検討していきたい。

1回の進路選択で人生を決めるのはなかなか難しい。生涯にわたってチャレンジし続ける必要がある。私も中国から日本へ留学し、日本語、経営、管理会計と必要や興味に応じて新たな学びを続けている。世の中がどう変わっていくのか高くアンテナを張って、興味関心がある分野から学びを続けてほしい。